

聖書箇所 マタイによる福音書25章14節～30節

- 14：天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。
- 15：彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには5タラント、ひとりには2タラント、もうひとりには1タラントを渡し、それから旅に出かけた。(16) 5タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに5タラントもうけた。(17) 同様に、2タラント預かった者も、さらに2タラントもうけた。
- 18：ところが、1タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。
- 19：さてよほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。
- 20：すると、5タラント預かった者が来て、もう5タラントを差し出して言った。『ご主人さま。わたしに5タラント預けてくださいましたが、ご覧下さい。私はさらに5タラントもうけました。』
- 21：その主人は彼に言った。『よくやった。よい忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人に喜びをともに喜んでくれ。』
- 22：2タラントの者も来て言った。『ご主人さま。わたしはタラント預かりましたが、ご覧下さい。さらに2タラントもうけました。』(23) その主人は彼に言った。『よくやった。よい忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人に喜びをともに喜んでくれ。』
- 24：ところが1タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。(25) 私はこわくなり、出て行って、あなたの1タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』
- 26：ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。(27) だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息が付いて返してもらえたのだ。』
- 28：だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを10タラント持っている者にやりなさい。』
- 29：だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまで取り上げられるのです。(30) 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出しなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。

メッセージ骨子：

<序論> 私は自家用車をもったことが無く、運転するならレンタカーなのですが、私は常々、事業経営とクルマの運転は似ていると思います。その観点から、「祝福された経営者」像を探ってみたいと思います。

<ポイント1> 『祝福の経営者とは、所有者でなく管理者であることをわきまえた経営者』
アダムは樂園の管理者なのに、自分を所有者と勘違いし禁を犯してしまいました。1タラントを預かったしもべも、同様にそれを借り物と勘違いし、勝手に取り扱って大失敗しました。私たちのビジネスも、人生も、実は借り物なのです。そして、アダムがそうであった様に、その借り物の優秀な管理者となることは私たちのいのちそのものなのです。

<ポイント2> 『祝福の経営者とは、最初の大切なものをお返しする経営者』
収入の **1/10** を主におささげすることで、残りの **9/10** の罪性が除かれ祝福されます。一日の最初の時間を主に捧げて、聖書と祈りに充てることで、平安と確信を持って一日をスタートできます。金にせよ、時間にせよ、最初の最も大切な部分をサラッピンのままでおささげすることが、『漠然とした不安』という、敵(サタン)の攻撃をつぶす鍵なのです。

<ポイント3> 『祝福の経営者とは、テーマに生きる経営者』
ダビデ王朝に未曾有の繁栄をもたらしたのは、この神に油注がれた王(自分)が戦いに負けるはずが無いという確信でした。また、ダビデのテーマは、すべての戦いについて神が主役であり、その勝利の栄光をすべて神にお返しするということでした。この良循環をいかに作るか。あなたの人生テーマは、あなたの人生のこれまでの苦しかった経験の中に隠されています。

<まとめ> もしあなたが車のエンジンをかける前に祈るなら、もしあなたの今運転している車(人生)がレンタカーだと知っているなら、もしナビに究極の目的地『天国』がインプットされているなら、すべての栄光を主にお返ししつつドライブするなら、そしてもし「私の人生のテーマは主の優秀な管理者になることです」と告白できるなら、それこそが真の **excellent driver**、祝福されたまことの事業経営者の姿なのです。